

2010.10 No. 17



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医師に選ばれる病院を目指して

## News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

### がん診療連携について

地域医療連携室長

藤本 一眞

佐賀県におけるがん診療連携と地域医療連携室について簡単に説明させていただきます。佐賀県、県内の病院、佐賀県医師会が一体となつてがんの診療に取り組んでいます。その中で当院は、佐賀県がん診療連携拠点病院として中心的な役割を果たしています。あらゆるがんに対応できるように先進的で高度な医療を提供するとともに、佐賀県内の医療機関と連携をとりながらがん診療に取り組んでいます。実際のがん診療は各専門診療科が担当することになりますが、各医療機関と連携をとりながら患者さんにより良いがん診療をご提供するが地域医療連携室の仕事となります。いつでもご相談にきていただければと思います。個々の患者さんの事情に合わせてながら最善の治療が提供できるように配慮したいと考えています。

佐賀県は全国でもがんによる死亡率が高い県です。がんによる死亡率を下げるには高度な医療を提供するだけでなく、がんを早期に発見するか、がんを予防することも重要となります。

また、そのための情報を提供するものも地域医療連携室の重要な仕事になります。佐賀県、NPOクレブスサポートと共催して佐賀県各地で年に数回にわたって市民公開講座を実施しています。佐賀県が委嘱したがん予防推進員の方や一般市民の方々がその対象となります。本年度の10月2日に行つた公開講座の案内を紹介していますが、同様の公開講座を今後も計画していますので、受講を希望される方は地域医療連携室にご連絡ください。地域医療連携室は患者さんのために設置されたものですので、遠慮されずにどんどん利用してください。



### 佐賀大学糖尿病診療班と糖尿病地域連携についての紹介

肝臓・糖尿病・内分泌内科 診療教授

安西 慶三

糖尿病患者数は年々増加傾向にあり、2007年の実態調査では糖尿病が強く疑われる人は890万人、糖尿病の可能性が否定できない人まで合わせると2210万人に耐糖能異常があるとされています。糖尿病は薬だけでなく、栄養・運動の指導や心理面でのサポートなど患者さんの全人的なケアが必要です。

そのため当院では、医師だけでなく看護師、薬剤師、管理栄養士、検査技師、理学療法士、臨床心理士など様々な職種の医療従事者が糖尿病診療班を編成して治療しています。さらに入院されている患者さんも糖尿病の治療が目的ではなく、循環器疾患や外科手術目的で入院された患者さんが、糖尿病を合併しているために治療が困難になることも少なくありません。糖尿病診療班は、内科だけでなく当院に入院された糖尿病を合併している患者さんを横断的に診療していますので、糖尿病を合併している患者さんも安心して治療を受け

ることが出来ます。

また、県内の医療機関に対し行ったアンケート調査では、かかりつけの診療所の先生方は合併症の検査・治療、血糖コントロールが不良な場合の治療の見直し、教育入院などの役割を基幹病院に希望されています。そのため今年度から、月曜から金曜日まで新患・再来外来を開設して、地域の診療所や病院の先生方について紹介いただいても対応できる体制にしました。合併症に関してもなるべく早く検査できるようにしております。

地域連携はかかりつけ医と基幹病院とが役割分担を行い、患者さんを中心に地域が一つの病院として機能する必要があります。私たちは大学内だけでなく地域の医療者との勉強会や市民の方への公開講座などを行い、患者さんが佐賀県のどこにいても標準的な医療を受けることができる医療連携を構築し、地域医療を支えていきたいと思っております。

### 就任挨拶

一般・消化器外科学講座 教授

能城 浩和



5月1日付けで一般・消化器外科学講座の教授に任命されました能城浩和です。昭和60年九州大学を卒業して同大学第一外科に入局して昨年4月に佐賀大学に赴任して今日を迎えました。佐賀大学医学部は前身の佐賀医科大学からすでに30年の歴史が生まれ、一般・消化器では初代久次武晴先生そして2代目宮崎耕治先生と引き継がれ臨床・教育・研究と確立された教室作りがされていきましたのでこれを継承発展させることは並大抵の努力ではないと思いますが、皆様のご援助を頂戴して何とかやり遂げていきたいと思っております。

従来、大学の使命として診療・教育・研究の3本柱に2006年国立大学の独立行政法人化にともない、どうしても今日は経営の4本柱があるように思えて仕方がありません。自分たちの食い扶持は自分たちで確保する必要があります。佐賀大学の将来構想や先進性に対する熱意で、高額な医療機器をも我々は手にするチャンスを頂戴しています。私のライフワークの「こだわりの手術」だけでなく先進性の高い医療を効率よく運営しなくてはいけないと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。

生体構造機能学講座 教授

寺本 憲功



基礎医学系の生体構造機能学講座に新たに「薬理学」分野が誕生し、私が教授として本分野を担当することとなり、本年6月、九州大学大学院医学研究院から着任しました。これまで私は九州大学やイギリス・オックスフォード大学に在任中より一貫して「薬理学」の学生教育及び学術研究を行って参りました。

「薬」は「病氣」を治療する際には無くしてはならないものであり、「薬理学」は「薬」が、どのようにヒトの身体の中で作用し、「病氣」を治すのか、その仕組みを解き明かす学問です。また「薬」が作用する新たな標的を見出し、患者さんにとって有益な「新薬」の開発(創薬)、安全かつ有効な「薬」の処方を確認すること(育薬)や画期的な治療法を新たに創り出すことを目指す学問でもあります。

今後、そんな「魅力ある」「薬理学」を修得し、地域医療に貢献出来る医師を育てて参ります。またこの「佐賀の地」から「世界」に向け、多くの研究情報を発信して参ります。佐賀の皆様の暖かい支援を賜りますようお願い申し上げます。



人工関節学講座 教授

廣川 俊二

3月末に九州大学を定年退職し、4月から人工関節学講座(寄附講座)に勤務しています廣川俊二です。工学部機械系の出身で、関節のバイオメカニクスが専門です。最近では正座可能な人工関節の実用化を目指した研究に取り組んでいます。

佐賀大学整形外科は関節手術のメッカとして高い評価を受けているだけでなく、工学系、看護・福祉関係、企業と連携して推進してきた「人工関節プロジェクト」の実績でも全国から注目されています。正座対応型人工関節が実用化されれば、佐賀大学は名実ともに「アジアにおける人工関節の研究拠点」になり得ると考えています。上記拠点の形成に向けて、微力ながら貢献できればと考えています。



救急医学講座 教授

阪本 雄一郎

8月1日付けで救急医学講座教授として担当させていただきます。私は熊本県天草郡出身で平成5年に佐賀医科大学を卒業後、研修を含めて約10年間佐賀大学附属病院を中心に一般外科の修練をさせていただきました。その後、千葉県の日本医科大学千葉北総病院で約8年間外傷手術、敗血症の集中治療を中心に学んでまいりました。

佐賀県全体の救急医療を見ますとここ数年、若手の救急医がほとんど育っていないのが現状であります。今後、このような状態が5年以上続きますと佐賀県全体の救急医療は壊滅的な状況になりかねません。佐賀県の救急医療のためにも当講座が魅力的な講座にならないと考えると、精進いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

がん診療連携について

藤本 一眞

佐賀大学糖尿病診療班と糖尿病地域連携についての紹介

安西 慶三

就任挨拶

# 認定看護師の役割と活動

特定の看護分野における高度な専門知識及び実践力と共に、倫理観、教育力を身につけた看護師が、看護活動の質の向上に努めています。また、現在、11名の認定看護師が病院内外の看護活動へ貢献しています。



感染管理  
認定看護師  
三原由起子  
看護師長

患者さんやご家族、職員など医療環境にいる人々を感染から守るため、感染防止対策の推進と、その評価・改善に取り組むことが役割です。感染対策専任として他部門と連携しながら、病院内を横断的に活動しています。



感染管理  
認定看護師  
金子ゆかり  
副看護師長

2009年に認定を受け、外科病棟で勤務しています。SSI(手術部位感染)サーベイランスを開始し、創感染の状況を調査したり、感染防止対策に努めています。今年度からは感染制御部でも、感染対策チームとして蓄尿率の調査など、病院全体を考慮した感染対策を行っています。協力して今後もさらに活動していきたいと考えています。



集中ケア  
認定看護師  
宮崎恵美子  
副看護師長

2003年に認定を受け、救命センターで勤務しています。緊急入院患者の早期退院を目指しケアを行っています。毎週火曜日に呼吸サポート班の回診に参加し、人工呼吸器管理についてアドバイスをしています。



集中ケア  
認定看護師  
坂本 典子  
看護師

口腔ケアサポートチームのメンバーとして、院内での口腔ケアの知識、技術の向上を目指しています。ICUでは教育係として、新人教育や日々の実践、指導をおし、患者さんの生活を支え安全・安楽な看護実践を目指しています。



皮膚・排泄ケア  
認定看護師  
古賀 鈴子  
副看護師長

創傷(褥瘡や術創)、ストーマ・瘻孔失禁ケア領域のコンサルトを受けています。全てに共通するスキンケアを基盤に、質の高いケアを提供できるように頑張っています。今後は、褥瘡管理専従としての活動にも力を入れていきたいと思っています。



皮膚・排泄ケア  
認定看護師  
酒井 宏子  
副看護師長

私は内科病棟に所属し、入院患者のスキンケアを中心に、第1・3木曜日には外来患者のストーマケアについて相談を受け活動しています。また、褥瘡対策班の一員として、院内の褥瘡予防に努めています。



緩和ケア  
認定看護師  
吉岡めぐみ  
看護師

緩和ケア診療班の一員として、患者さん・ご家族への援助を主治医や看護師、多職種と協力して行っています。末期医療だけではなく、治療と平行して苦痛症状が緩和できるように支援しています。



新生児集中ケア  
認定看護師  
佐田富浩子  
看護師

NICU看護スタッフに対し急性期かつ重篤な状態にある新生児のケアの実践・相談・指導を行っています。一人ひとり尊重し愛情と優しさを持った個別的ケアの実践と、子どもと家族中心の看護を提供できる質の高い看護を目指しています。



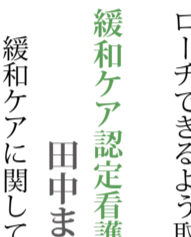
救急看護  
認定看護師  
松下 英代  
看護師

今年度、救急看護認定看護師に認定されました。救急患者は時と場所を選ばず発生します。そのため、救急患者の救急度や重症度を迅速に把握し、突発的な状態変化に対応した看護が提供できるように努力しています。また、院内だけではなく、災害時やプレホスピタルでの看護活動も救急看護の役割であるため、消防や警察と協力しながら地域に貢献していきたいと考えています。



糖尿病看護  
認定看護師  
藤井 純子  
看護師

糖尿病を持ちながら『生活する人』の悩みを知り、病気に縛られた生活ではなく、自分らしく豊かな療養生活を送れるような看護を目指します。療養指導、フットケアなどチームでアプローチできるような取り組みを行います。



緩和ケア認定看護師  
田中まゆこ 副看護師長

緩和ケアに関して、より知識や技術を深めたい、がんの治療・看護についても学びたいと思い、現在休職して高知女子大学大学院看護学研究科でがん看護専門看護師を専攻、勉強しています。あと1年半しっかりと学び、復帰したいと思っています。

# 動作解析・移動支援開発センターの紹介

当センターは、その名称の通り、動作及び運動解析と移動支援開発の両機能を有しています。

〈動作解析・運動解析機能〉 立つ、座る、歩く、そして移動するという行動全般(モビリティ)は、生活における基本的動作です。また、歩行や人間の運動計測は、各種疾患の症状の検出や患者さんの訴える症状の数量化を可能とし、よりの確な診断と治療を行うことが出来ます。加えて、疾病や加齢によって生じる姿勢制御機能低下や歩行・運動機能低下をその障害を診断・治療することは、寝たきりを防ぎ、QOL(生活の質)の高い生活を維持するために不可欠です。

当センターの動作・運動解析用機器の主なものは、①モーションキャプチャー装置(人間の動きを無拘束で誤差1mm以下の精度で計測)、②床反力計(歩く際の足の付き方や床面に対する圧のかけ方を三次元測定)、③テレメータ(筋活動や関連する生理学的指標の無拘束測定)、④筋力測定器(身体の主要な筋肉の強さを測定)等です。これらの装置の一部は、他の医学部に

も設置されていますが、当院の場合、その測定範囲が広いこと、そして何より臨床での利用を意図して病院内に設置されたことが極めて特徴的です。現在、患者さんの歩行や運動の精密な検査として運用するための体制を整備しており、併せて患者さんに検査結果をフィードバックする内容の検討と準備を行っています。

〈移動支援開発機能〉 当センターは、転倒防止や移動能力維持向上によって地域医療の充実を図るために、医工福祉連携をはじめとする学際的研究開発(例、ロボティクスや画像処理など先端的研究の応用や先進的機能回復訓練の開発)を行う機能を有しています。これは大学病院に対し、地域医療支援や教育研究活動支援を求めている最近の流れに対応したものです。こちらの機能についても当該センターの利用規程を定めて活用してもらえるように準備を行っています。

また、別経費で導入された近赤外線脳機能計測装置との併用も検討されています。

も設置されていますが、当院の場合、その測定範囲が広いこと、そして何より臨床での利用を意図して病院内に設置されたことが極めて特徴的です。現在、患者さんの歩行や運動の精密な検査として運用するための体制を整備しており、併せて患者さんに検査結果をフィードバックする内容の検討と準備を行っています。

〈移動支援開発機能〉 当センターは、転倒防止や移動能力維持向上によって地域医療の充実を図るために、医工福祉連携をはじめとする学際的研究開発(例、ロボティクスや画像処理など先端的研究の応用や先進的機能回復訓練の開発)を行う機能を有しています。これは大学病院に対し、地域医療支援や教育研究活動支援を求めている最近の流れに対応したものです。こちらの機能についても当該センターの利用規程を定めて活用してもらえるように準備を行っています。

また、別経費で導入された近赤外線脳機能計測装置との併用も検討されています。

また、別経費で導入された近赤外線脳機能計測装置との併用も検討されています。

また、別経費で導入された近赤外線脳機能計測装置との併用も検討されています。

また、別経費で導入された近赤外線脳機能計測装置との併用も検討されています。

## 文化コーナー

8月10日から1カ月の間、院内外問わず広く募集いたしました「文化コーナー 俳句・写真募集」につきましては、俳句69点、写真15点とたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。誠にありがとうございました。いただいた作品の中から選定したものを今回掲載しております。また、病院ホームページや外来ロビー等に全作品を掲示しております。

木下みね子・万沙羅選

- 甲子園 熱き球児の あせひかる
- 天井に 夜景の明かり 虫の声
- つばくろの 玻璃戸越しなる 速やかな
- 夏休み あつという間に 終わつたよ
- 妻まかせ それでも稲は 穂をつける
- ひまわりが 太陽みたいに まぶしくて
- 大花火 万座ビーチを ふるわせて

匿名希望

- 江口八重子さん
- 正波さん
- 石原由梨奈さん
- 川原司さん
- 小松美琴さん
- 鍋島の龍馬さん



▲「わたあめ」(河畔病院職員さん)

で、是非一度ご覧ください。  
広報委員・文化コーナー担当 南里悠介 (神経内科 助教)

# 投書箱「希望の声」について

患者サービス課 係長 森永 正輝

以前、院内のトイレは和式と洋式トイレが有りましたが「膝などを患っている者には和式でしゃがんだり立ったりするのはつらい。洋式に変えていただくか洋式を増やしてほしい。時代遅れだ。」また「洋式はあるがウォシュレットが付いていないので付けて欲しい。」とのご意見やご要望をいただきました。このたび院内のほとんどのトイレをウォシュレット機能付きの洋式トイレに全面改修を行いました。

また、「MRI室前のトイレは車椅子使用者には手すりもなく困った。手すりを付けて欲しい。」というご意見もいただきました。ご指摘のトイレは他の箇所のトイレより入口や内部が狭くご不自由ご不便をおかけしておりました。早速廊下側と便所内に手すりを設置しましたので安心安全にご利用いただけるようになりました。

また、車椅子に関して「車椅子を利用したくても無い時が時々あります。大変困ります。」とのご意見があり早速10台購入しご不便をおかけしないようにいたしました。今後もよりよい病院づくりのために努めてまいりますので皆様からのご意見やご要望をお寄せください。



▲「わたあめ」(河畔病院職員さん)